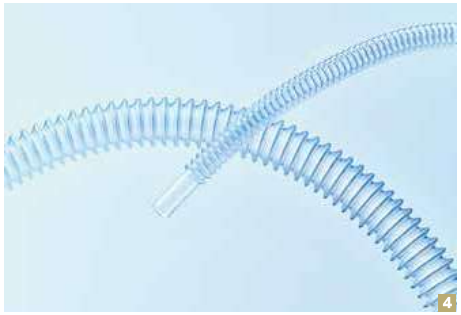

1 事業所外観
2 事業所ロゴ
3 標準化のための「手順書」を確認しながら取り組む様子
4 主力製品の1つであるフレキシブルチューブ「ペンケムCT.」

ふっ素樹脂チューブで産業を支える
自社製品と輸入品の“両輪経営”

ペンニットー㈱　代表取締役社長　**櫻井 健一** 氏

ペンニットー（中央区南橋本）は、一般的なプラスチックに比べて耐熱性や耐薬品性に優れた「ふっ素樹脂チューブ」の製造販売を手掛けています。ふっ素樹脂チューブは、医療・理化学機器、自動車、電力・通信工業、食品向けなどの産業分野だけでなく、一般家庭の家電製品などにも使われています。同社は、自社製品と輸入品の両輪で事業を展開していることが特徴で、製品の高付加価値化も推進。製造現場ではデジタル技術を活用した作業の標準化にも積極的に取り組んでいます。今回は、同社の櫻井健一社長にインタビューしました。

■製品の特徴と御社の強みについて教えてください。

「主に熱収縮チューブやフレキシブルチューブ、ファインチューブを扱っています。熱収縮チューブは産業機器や自動車などで使われます。フレキシブルチューブは蛇腹型のチューブで、省スペースの機器内配管などで性能を発揮します。また、ファインチューブは細く、高い寸法精度を持つ機能性材料です。当社の強みは『開発・製造業』と『商社機能』の両輪で、幅広い提案をお客様に行えるところです。もともと、当社は米国Penn Tube Plastics社のふっ素樹脂製熱収縮チューブ『ペンチューブ』の輸入代理店として始まり、お客様より液漏れがしやすいというお悩みがあり10年という歳月を経て、フレキシブルチューブ『ペンケム』の開発に乗り出しました。お客様に寄り添い続ける製品づくりが強みです。自社工場も相模原市内に有しています」

■設備投資や生産性向上の取り組みについて、お聞かせください。

「生産設備の増強や更新、それに合わせたメンテナンスやカスタマイズを進めています。外部の専門家の知見を活用しつつ、社員の機械やメンテナンスに関する知識を向上させ、故障率を下げる取り組みも進めています。さらに、製造現場での技術やノウハウの属人化を解消しながら、全員が必要なノウハウを把握し身に付けられるように作業手順の標準化にも乗り出しました。具体的には、現場の従業員に一人1台ずつタブレットとしても使えるノートパソコンを配布し、業務アプリのkintone（キントーン）で『標準作業手順書』を共有・閲覧できるようにしています。来期の目標は、標準化整備率を現在の20％から80％以上に引き上げることです」

■製品展開の強化は、今後、どのように進めていきますか。

「単にチューブを製造・販売するだけでなく、お客様のニーズに合わせて、付加価値を持たせた製品を提供できる体制にしていきたいと考えています。一例を挙げると、チューブを機器に接続しやすくするためにチューブの先端部分などに加工を施したり、チューブを機器に取り付けたりする施工の部分まで当社で行うということです。これまで、お客様側で手掛けていた部分まで当社がワンストップソリューションとして提供するところを目指しています。また、製品やサービスをご提供できる幅を拡大するため、生産性の向上とともに製造現場の人員を増やしていく必要があり、そのために定期採用を続けていきます」

■従業員のワークライフバランスや採用についてはどのようにお考えですか。

「当社には、『プライベートが充実するからこそ、仕事も頑張れる』という文化が根付いています。2024年度は有給消化率実績が85％、残業は月平均で6.9時間でした。また退職金制度や家賃補助も整備されています。2年前には総務部門に専属の人事担当者を置き、人事機能を拡充しながら採用を強化しているところです」

ペンニットー㈱
〒252-0253
相模原市中央区南橋本4-5-13
TEL：042-700-1181
https://penn-nitto.co.jp/